

裏地素材がスカートの着心地と整容性に及ぼす影響

○川端博子*・布山 千穂**・鳴海多恵子**

(*都立短大、**東京学芸大)

(目的) 表地素材の多様化の中で、裏地の選択については経験によるところが多く、科学的なデータに基づく報告は少ないようである。本研究では、若年と中年女性を対象とするアンケート調査により、裏地に関する認識と衣服の購買行動の関わりの実態を整理した。更に、タイトスカートの着用実験を例に、裏地の有無および素材の違いが実際の着心地と外観に及ぼす影響を明らかにし、衣服設計への提言を行うことを目的とした。

(方法) ①調査では、女子大学生(296名)とその母親層(187名)を対象に、裏地に抱く印象と知識、購買行動について質問した。②伸長特性の異なる表地を2種類用い、裏地なしと5種の裏地をつけた12種のタイトスカートを作成した。従来型裏地として、1. キュプラ、2. ポリエステル、伸縮性織物裏地として、3. キュプラ軽ストレッチ、4. ポリエステル軽ストレッチ、5. ポリエステル2wayストレッチを用いた。③裏地の違いによるスカートのはき心地を、17人の被験者が一対比較で判定し、評価を行った。④③で特徴のみられた6種のスカートを例に、動作の状態をビデオで撮影した。官能検査により、表地と裏地の性質が外観に及ぼす影響について考察した。

(結果) ①調査の結果、若年女性では、裏地への知識と関心が少なく、裏地を考慮して衣服の選択を行っていない傾向がみられ、消費者教育の面からの問題点が明らかとなった。②着用実験の結果、裏地をつけることで、快適性の向上が認められた。肌触りのよさは裏地の表面摩擦係数と関係し、動きやすさの評価は、裏地の伸長性能に関与することが考察された。③外観判定では、伸長性の高い表地のスカートが低い評価となった。伸縮性裏地を用いることで、外観に及ぼす影響が少なくなることが分かった。